

## 平成30年度 第1回函館市福祉政策推進会議 会議概要

### ■日 時

平成31年2月13日（水） 午後5時30分～7時00分

### ■場 所

函館市総合福祉センター 2階第1会議室

### ■報告事項

- 1 地域福祉に関する意識調査結果報告書について
- 2 第4次函館市地域福祉計画（案）について
- 3 平成31年度当初予算（保健福祉部分）の概要について

### ■協議事項

- 1 第4次函館市地域福祉計画の各施策を推進するための手法について
  - (1) 基本施策1-1 地域住民が集う拠点づくり
  - (2) 基本施策3-1 地域福祉に対する意識の醸成
  - (3) 基本施策3-3 積極的な情報発信

### ■会議資料

- 1 第4次函館市地域福祉計画（案）
- 2 地域福祉に関する意識調査結果報告書
- 3 第4次函館市地域福祉計画施策の概要（当日配付）
- 4 平成31年度予算の主な概要（保健福祉部分）（当日配付）
- 5 通いの場マッチング事業【平成31年度新規事業】（当日配付）

### ■出席委員（5名）

池田座長，大橋委員，齋藤委員，相馬委員，野村委員

### ■欠席委員（1名）

山田委員

### ■事務局職員

- ・保健福祉部 平井部長，本吉次長
- 地域福祉課 和久井課長，伊藤主査，藤井主任主事

### ■傍 聴

なし

## ■報 道

1 社（函館新聞社）

## ■会議要旨

- 1 開会
- 2 事務局紹介
- 3 部長挨拶
- 4 報告事項
- 5 協議事項
- 6 その他
- 7 閉会

### 事務局（伊藤主査）

ただ今から、平成30年度第1回函館市福祉政策委員会を開催する。  
初めに当会議の事務局である、函館市保健福祉部職員をご紹介させていただきます。

#### — 事務局紹介 —

### 事務局（伊藤主査）

続いて、平井保健福祉部長より一言ご挨拶を申し上げます。

#### — 部長挨拶 —

### 事務局（伊藤主査）

会議次第に従い進行するが、この会議は公開とし、このあと7時頃の終了を予定しているので、ご協力をお願いしたい。

それでは、ここからの会議の進行は、座長を議長として進めていただくので、よろしく願いしたい。

### 池田座長

堅苦しくなく、忌憚のない意見を出してもらいたいので、よろしく願いしたい。

早速、報告事項（1）「地域福祉に関する意識調査結果報告書について」事務局から説明いただきたい。

#### — 資料2説明 —

### 池田座長

意識調査の結果報告があったが、これについて何か質問や意見はあるか。

## 大橋委員

企業に対してのアンケート調査実施は珍しいと思う。企業からの回答では、バリアフリー環境の整備や従業員がボランティア活動を行っていることが印象に残った。

また、学生用のアンケートでは若者の意見、一般用のアンケートは高齢者の回答が多かったのも、年代によって困りごとが違うということがわかった。

学生用の回答を見ると、福祉に関する法律・制度・条例や活動内容の認知度が低いことがわかった。

## 池田座長

結果を見ると、読み込める部分は結構あると思うが、これに対する質問はあるか。

なければ、(2)「第4次函館市地域福祉計画(案)について」事務局から説明いただきたい。

### — 資料1説明, 当日配付資料1説明 —

## 池田座長

資料説明ということでよいか。それでは、(3)「平成31年度当初予算(保健福祉部分)の概要について」事務局から説明いただきたい。

### — 当日配付資料2説明, 当日配付資料3説明 —

## 池田座長

これは骨格予算なので、政策予算となると変わってくる部分もあると思うが、これがベースになる。

介護人材がやはり問題になる。地域福祉を行うにしても、地域の中に介護人材や福祉の人材をいかに配置するかがとても大切になる。

大妻高校では、福祉科の今年受験生は、定員40名に対し最終的には15名くらいになるが、教員は最低8~9名必要になり経営も大変になる。

賃金の問題よりも、働き方改革で職場が変わってきており、助手も入っているので介護福祉士はケアの部分に専門にやっているが、世間では昔のイメージしかなく、福祉を頭から否定してしまう。この部分を市などがPRして改革していくことがすごく大切になる。

福祉の現場で働いている人の子どもが福祉の現場に入っていない。福祉の現場の人がネガティブな発想を払拭できると良いと思う。

市は人材養成をしっかりやらなければ、建物だけがあり人材がいなく、やっていけない状況になる。

ロボットに介護されたい人はいないと思うので、市も考えてほしい。

## 野村委員

地域福祉計画について、私は策定委員として策定委員会に参加し、発言の機会を与えていただき、地域福祉計画そのものについては委員会の中で十分意見反映していただいたので良い計画ができたことに感謝している。

介護人材の話が出たので、池田座長の話の補足になるが触れたいと思う。

今、大妻高校の入学者の話聞き、厳しい状況だと思った。私が非常勤講師を務めている函館臨床福祉専門学校は、社会福祉科が40名、介護福祉士科が40名で定員80名となっており、どちらの科でも介護福祉士の受験ができるので、実質介護福祉士の養成機関になっている。社会福祉科は2018年度入学生で募集停止となっているので、今後は介護福祉士科だけとなる。介護福祉士科の定員は40名だが、学生数は定員より少ない。

今年の3月は22名しか介護福祉士になりえる人材が卒業しない。来年3月の卒業予定者は24名のみ、それ以降は社会福祉科の学生がおらず、介護福祉士科の学生のみになるが、今の1年生は14名しかいない。

平成9年に最初の卒業生を送り出した時は約100名いたが、10年くらい前から右肩下がりになり、今後20名に満たない状況を見ると地域での介護人材の確保がとても心配になる。

コンテ日吉では色々な問題があったと思うが、入居者の受け入れが進んでいないということは、新聞報道を見る限り、職員の確保が鍵を握るということになっている。介護人材を確保できていないことが、コンテ日吉が順調に運営されていないことの大きな要因と推測されると考えざるを得ない。

コンテ日吉についてこの会議で繰り返し議論になった際も、私は介護人材の育成については大きな課題だと話した。基本的に民間事業者が進める事業なので、事業者の責任において人材確保をするということは形式上そのとおりだと思う。人員確保できないのは事業者の責任であることは言えるが、そのように言うてはいられない状況ではないか。

全市あげての行政全体の課題として、介護人材の育成確保ということを考えていかなければならないということは、この会議で繰り返し話題になっていて、状況がますます深刻になってきているのではないかと思う。

今までも色々な意見が出ていた。介護課程に進学する学生に対し奨学金のような援助を行う。人材確保についても、市の移住促進のプロモーションの中で、介護に従事する人材は家賃の減免や生活面の助成など、函館で介護の仕事をする移住者に対しては手厚い優遇をしていく。西部地区に住んで介護の仕事をする人は家賃を無料にするなど、思い切った人材確保行わないと全市的に介護の問題は深刻な状況になっており、地域福祉計画の推進そのものについて大きなネックになるのではないかと感じている。

## 大橋委員

先日、市の保健師が介護人材についてのアンケートをするということで訪ねて来た。その時に話したが、外国人労働者はこれから介護の分野に必ず入ってくると思う。コンテ日吉の新聞記事にも書いていたが、中国人がすでに12人コンテ日吉で働いている。それが致し方ないのであれば、放っておいてはいけないと思う。

働き方も色々あり、技能実習や労働ビザ、介護福祉士資格を持って入ってくる人や留学生として専門学校に行き、介護福祉士資格を取ってそのまま働き続けるなど、色々なパターンがある。日本語学校へ通い日本語を学んで、日本語を身につけたら専門学校へ行き介護福祉士資格を取得するのが一番良いと思う。それには費用がかかるので、社会福祉法人や函館市が奨学金を出すなどし、介護を学んで資格を取り、そのまま日本で働いてくれるなら良い。

介護を学びたい人に来てもらい、専門学校に通い、介護を学んで資格を取得し帰国するなら帰国、そのまま日本に居続けることもできるなど、受け入れるならそれなりの道筋を立てて、どのような形にするとお互いにとっていいことなのかを受け入れる側の事業者伝えていく必要がある。

外国人が入ってくるのであれば、みんなが知識を持つような研修や普及啓発が必要となり、函館市が奨学金を出すなどの手立ても必要だと思う。

#### 池田座長

コンテ日吉で働いている人は看護師なのか。

#### 大橋委員

看護師で日本語学校に行き勉強しているが、N1が取れたら受験資格が得られるだけなので、そこから受験して、日本の看護師の国家試験に合格しなければならないが、受け入れている法人がそのための勉強をさせなければならないと思う。

介護の職員として働いているので、看護の勉強をしているわけではない。

#### 事務局（平井部長）

日本語レベルについては、ほぼ皆さんN1を持っており、会話は日本語で何不自由なくできた。N1の証明書のようなものを見せてくれ、持っていない人は5～6人いると聞いている。中国の看護師資格を持って日本へ来ている。彼女たちの目標は日本の看護師試験に合格することで、その勉強は日本語学校ではできないので自分たちで勉強している。

勤務時間については、平日は午後4時から8時までで、その勤務が2日くらい空くと夜勤ができる。土日は8時間勤務をしてもらっていると聞いている。今の正確な状況はわからないが、受け入れた時にはそのように聞いている。

#### 池田座長

今も条件は同じだと思う。

どちらにしても、どのように介護人材を養成できるかを考える必要がある。

大谷短大では保育士資格取得後1年学ぶと介護福祉士の受験資格が得られるが、今数人しかいないので、将来的には養成をやめる可能性もあるかもしれない。

#### 事務局（平井部長）

去年から始めた介護助手の活用促進事業の状況をご説明したい。

介護助手を使う取り組みを行うと、仕事の仕分けや研修などに係る費用を市が負担する事業で5施設の募集枠で始めたが、実際応募があったのは2施設だけだった。残念だったが、2施設で講習や説明会などの取り組みをし、2施設合計で16名の介護助手の採用募集に対し、説明会に70名以上の方が来られて、実際に雇用面接に50名以上の方が来た。

話を聞くと、ハローワークに行っても職に就きたくない、近所で働く場があるなら働きたい、という主婦や高齢者の方が多かった。介護助手として働いていただいたのは、当初の予定どおり16名だったが、説明会で話を聞き、これらの施設で働くことに結びついた方や市の研修を受けることになった方もいた。

今年は骨格予算だが、当初の予算の中に入っているのも、5施設で実施できて、多くの方に来ていただき、現場で説明を聞き働きたいと思う方が少しは増えるかと期待している。

#### 池田座長

70名はすごいが、あくまでも介護助手である。

#### 事務局（平井部長）

介護助手だが、資格を持って働いていない方も結構いらっしやったようだ。

#### 池田座長

介護福祉士など、きちんとした資格を持っている人が必要。

#### 事務局（平井部長）

介護初任者研修を受けた方はいる。

#### 池田座長

初任者研修は市も各施設に対して補助金を出しているのか。

#### 事務局（平井部長）

もちろん出している。初任者研修を受講された方が説明会に結構いらした。過去に経験があるということで翌月から働いた方もいたと聞いている。

今年度、市内の施設に応募の意向を聞き取りした際、5施設くらいで新年度の応募意向があった。

#### 池田座長

やはり、しっかりとした資格を持った人をどのように養成していくのか。助手ばかりを増やしてもしょうがない。結婚を機に退職するなど、どんどんいなくなってしまう。

地域福祉計画の基本施策に「新たな人材の養成」とあり、今日の協議事項ではないが、この部分をどのようにやっていくか。まずは市で意識づくりをやっていただけると、かなり変わると思う。

報告事項については以上とする。

協議事項「第4次函館市地域福祉計画の各施策を推進するための手法について」事務局から説明いただきたい。

－ 資料2説明, 当日配付資料3説明 －

池田座長

資料2の30ページにあるマッチング事業について、何か意見はあるか。

相馬委員

私は障がい者関係の事業を行っているが、身体・知的・精神と分かれて実施されているので、あまり活発にやっているということはない。

知的障がい者は、総合福祉センターで休みごとに余暇事業としてレクリエーションをやっており、20～30人集まっているが、参加者が高齢化し若い人が集まらない。

障がい者は行くところがない。出かけて自分たちで自由に遊べる場所がない。総合福祉センターに来ると安心して遊んでいるが、それ以外の場所に行くと「あっちに行け」と言われることがある。

池田座長

みんなが集まれる場が地域にあると、わざわざ遠くへ出かけなくても良くなる。

相馬委員

そう思う。以前、亀田福祉センターでイベントを行ったことはあるが、今は使えなくなってしまった。

池田座長

私がシアトルに行った時、小学校に様々な障がいを持った子どもがいて、横に大学生がついて、サポートを受けながら一緒に教室でみんな同じ授業を受けていた。目的は共生で、障がいを持っている人も持っていない人も共に生きるということを小学生から授業で行っている。日本でもそのようなことができれば、地域の中で何の違和感もなく差別がなくなる。

高校には保育施設があり、学生の子どもが遊んでいる。子どもがいる人も高校の授業を受けている。

教育自体に新しい発想を持たないと差別の撤廃や地域での共生が進んでいかないのではないかと。

事務局（平井部長）

シアトルの大学生は授業の一貫としてサポートを行っているのか。

池田座長

ボランティアセンターがあり、学生と教授が連絡をとりながら、ボランティア活動を授業としてカウントしている。

そのようなことができる、地域での共生がかなり変わってくるのではないと思うが、それが正しいのかとも考える。日本のように専門的な教育機関で教育を受けた方が、その子のためにはいいのかもしれないとも考えた。

地域の共生ということから考えるとどちらがいいのか、結論は出さなかった。

#### 大橋委員

マッチング事業だが、ボランティア団体との関わりで活動場所を探したことがある。探していた時に、駐車場と電話相談を受けるための電話回線が必要だったが、中々そのような場所がなく、ずっと同じ場所を使っている。マッチングをする際には駐車場、電話回線、コピーできる場所など、ボランティア活動ならではのものが必要になると思う。

イベントをするたびにその都度場所を借りると、そこにずっと荷物を置いておける、というのも違う。ロッカーを設置して荷物を置くとなると、場所を貸す側もそこが占有されるので期間や条件が変わってくると思う。

函館大学のサテライトをイベント用に貸すことがあり、本校では文化団体が大学の一室に事務局を置いているので、そのような貸し方ができる場所は他にもあるという気がしている。

マッチング事業と直接関係ないが、今回の意識調査で企業にアンケートを行った際、バリアフリーなどで頑張っている企業が多かった。一般向けの設問で「子育て・介護をしているか」との問に対し「はい」と答えた人で「外出時に困っていることはあるか」と尋ねると、4割くらいが「困っている」と回答している。意見を見ると、子育て中の方は「子ども用のトイレがない」「おむつ交換用の台がない」という意見が多い。企業に依頼し設置されていくと、企業側も「子ども用のトイレ、おむつ交換台がある店舗」と言えるので、協力してくてる企業があるのではないかと思った。

#### 池田座長

統合されて空いた小中学校の活用はどうなっているのか。

#### 事務局（和久井課長）

地域福祉計画策定にあたり、教育委員会と話をしたが空き教室は各学校によって状況が違う。統合によって空いた校舎については確認していないので、使える状況かわからない。

#### 事務局（平井部長）

空き校舎になると経費が掛かるためライフラインを止めてしまうので、使いたい時にすぐには使えない状況。

#### 池田座長

校舎全体ではなくてもどうかできないのか。そのような場所があると集うことができるのではないか。

## 相馬委員

空き教室で児童館のようなこともやっているようだが。

## 事務局（平井部長）

子どもが少なくなり教室が空いている学校も結構あるので、空き教室であれば活用できるかもしれない。今後、コミュニティスクールになった時に、地域と連携して空き教室の活用方法について話し合いができるようになるのではないかな。

## 相馬委員

学校が使えると近くで集まりができる。

## 池田座長

この近辺に限らず、高齢化の進んでいる東部地区でも空き教室を利用できると、マッチング事業ができるのではないかな。

## 事務局（平井部長）

東部地区は旧市内と違いコミュニティセンターがある。

集う場所の話があったが、聴覚障がい者の方たちが自分たちの集う場所として、無料で使えるGスクエアのオープンスペースに集まり、来た方に手話を教えるということをしていたら、最近高校生が手話を習いに来る光景が生まれてきた。

手話の出前講座をやっているが、申し込みが減少してきており、興味を持たれていないのかと思っていたが、現場では興味のある人が飛び込みで参加している。

## 池田座長

それは本当の地域福祉になるので、地域に広がると良い。拠点づくりをどのように行うか。

## 齋藤委員

「地域住民が集う拠点づくり」について。通いの場マッチング事業に対するイメージは、スーパーの椅子が置いていて自由に使える共有部分などで、定期的に何かの団体が使える仕組みがあれば、それが通いの場になるのではないかなというイメージ持って聞いていたが、具体的な想定があるのか聞きたい。委員の先生たちがそれぞれのイメージで考えているような気がする。

## 事務局（伊藤主査）

これは平成31年度の新規事業で、今の想定は齋藤委員の話のとおり、スーパーの共有スペースでサロンのように高齢者が集まりお茶を飲むとか、介護事業所等で使っていないホールなどを団体に月に数回貸し出して健康体操を行うことなどを想定しており、色々なことができる場所をまずは登録していただく。その中から利用希望団体が自分の地域に近い場所で登録している施設と交渉し、その場でできることをやっていただくイメージを持っている。

## 齋藤委員

一つの団体がテナントで入るイメージではなく、町内会館ではなく、身近な地域の中に様々な小さなシェアスペースを増やしていく取り組みだと思うので、魅力的だと思う。多世代が集える拠点をどのように作っていくかというイメージは今まだ湧かないが、高齢者施設・スーパー・食堂などで、定休日に開けてもいいというところもあるかもしれないし、地域の人たちが地域活動をしていくための場所があればいいという声は色々な地域で聞く。退職金をはたいて場を作ったという人はたまにいるが、普通の市民が地域活動を興す時にネックになるのは場所だと思う。場所を貸すことなら協力できる、場所があるなら活動できる、町内会館は嫌だけど他の場所ならいい、という多様な世代・属性の住民グループが活動できる拠点が広がると良いと思っていて、そのイメージであれば大変面白いと思いい、どのように展開すると良いか今すぐには思いつかないが、具体的に考えてみたいと思った。

「地域福祉に対する意識の醸成」について。別のまちの例だが、近隣の住民のためにしていること、してほしいこと、したいことを聞いてみたら、実際にしてほしいこと、やってあげていることのマッチングが悪いということが出ている。地域活動の中にあつたらいいと思うこと、してあげていいと思うことがずれているのは惜しいので、うまく繋ぎ合わせていくことができると、もっと地域福祉が高まっていくと思う。地域の中のしてほしいこと、できることを出し合う、分かち合う機会を10圏域ごとに、二層コーディネーターが中心となった取り組みで進んでいくと良いと思った。

## 野村委員

1-1の施策について皆さんの話を聞いて、色々な自主的な交流の機会・グループができ、その活動をする場所も町会館に限らず多様な場所ができ、マッチングされていくことによって地域住民の拠点づくりが進むということは良いイメージだと思う。

拠点というと空間がイメージされるが、ある程度仕掛け人的なものがいないと進んでいけないのではないと思う。この計画全体を通じて地域福祉コーディネーターの役割が非常に大きいと思う。第2次の地域福祉計画に初めて盛り込まれ、人員が配置され、色々なモデル地区の活動で成果を上げたという経過がある。

今回の計画でも地域福祉コーディネーターは位置付けられているが、2名の体制は変わっていないので、どこまでできるのかという議論をしなければならない。

計画策定委員会でも話したが、資料1の23ページにある法律・制度・条例等に関する認知度の調査結果で、個人的にショックだったのが、私が関わっている「はこだて若者サポートステーション」を知っている人が12%しかいない。しかし、現実を知ったことに意味があり、さっそく運営している国際交流センターには現状について話を入れている。

同じく残念なのが、地域福祉コーディネーターも最も低い認知度で、知っている人が20%以下という状況。拠点づくりの人的な仕掛け、大きな役割を果たしていく地域福祉コーディネーターが十分に認知されていない、認知されるほどの十分な人的な配置もされていない。これが1-1の施策を推進する大きな鍵になってくるのではないか。そこも併せて課題として考え、社協に配置するという配置方法がいいのかもこれからの検討課題ではないかと思う。

### 池田座長

地域福祉コーディネーターなどの記事を市の広報誌に掲載してもみんな読むのだから。

どのようにしたら地域福祉に関する知識や意義などを市民に広く知らせることができるのかと思う。

### 野村委員

実際、地域福祉コーディネーターが活動した地域では、その役割がとてもいいものだということを関係者は実感しているし、地域福祉コーディネーターがいなくなった後も、それに類する活動を継続していると思う。

問題は全域的に広がっていかないこと。子ども食堂が計画で紹介されていることはいいことだし、自主的な活動なのでいいことだと思う。例えば、子ども食堂連絡協議会のようなものができて、団体が相互に交流したり、広がったりする取り組みもあっていいと思うが、子ども食堂が任意の活動だから、そこに任せるということでいいのか。コーディネーターのような形で活動を育成する仕掛けを行政や社協が行うのがいいのか、自主活動は大切だが、ある程度仕掛けのようなものが必要になるのではないかと感じる。

### 池田座長

子ども食堂はたまにTVなどにも取り上げられているので知られているが、地域福祉コーディネーターは中々活動内容が知られていない。

### 野村委員

先日、国際交流センターで地域活動についての交流会があった。子ども食堂の方もパネリストとして参加し、子ども食堂のことを広く訴えるということでとても有意義な活動だったと思うがあくまでも国際交流センターがやっている事業なので、個々の子ども食堂や町内会などが自主的に他に働きかける事業展開は中々難しい。育成する方向での外からの働きかけがないと広がっていかないと感じる。

### 池田座長

何か市民に周知できる方法はないか。

### 大橋委員

地域福祉コーディネーターの周知となると難しいと思うが、福祉の意識醸成ということであれば、先ほどのマッチング事業を行い、身近なところで福祉の実践が行われていくということが一番だと思う。

他の自治体では、認知症カフェをスーパーやファストフード店でやっているところもあり、他の人の目に触れる。他の客が見かけて興味を持って寄り道をし、認知症に触れる機会のなかった人が触れることになる。マッチング事業で色々なイベントがあり、普段福祉に関係のない人が来るような場所で行われるようになると変わってくる気がする。

## 池田座長

鳶屋書店は人が集まるのでいいかもしれない。

色々なことをやっても周知することが難しいが、やっている内容は素晴らしいので、その意味をPRできたら、これから参加したい人も出てくると思う。

## 齋藤委員

地域福祉計画（案）で地域福祉コーディネーターと生活支援コーディネーターの記載があったが、全市単位で2人の地域福祉コーディネーターと、全市で一層が1人・二層が10圏域にいるので、地域の福祉に関わるコーディネーター的な機能を果たしうる人が全市に13人いるのであれば、その活用方法が課題と考えている。

他のまちの事例で言うと、高齢化率が50%を超えている地域があるが、サロンに遊びに来る人はいない。避難路の草刈り・通学路のゴミ拾い・特殊詐欺予防の勉強会のためにサロンに集まるのであって、サロンに目的なく遊びに来る人はいない、と地域の人に怒られたことがある。

サロンはもっと多様であってよいし、遊ぶためだけに高齢者が集まるのはもったいない気がする。高齢者に、もっと社会貢献活動をしてくださいということでもなく、こうしなければいけないということでもない。そこをうまく仕掛けていくのが生活支援コーディネーターを含め、少し専門的な知識や認識を持った人たちで、ただの趣味活動から地域貢献活動へ底上げしていくような取り組みが活性化策としていいのではないかと考えると、地域福祉コーディネーターと二層の生活支援コーディネーターの活用のあり方の検討や、共有スペースでのマッチング事業でコーディネーターがより一層活躍してほしいと期待する。

## 野村委員

サロンは自主的なものなので、色々なサロンがあちこちで行われることが大切だと思う。

不登校に関する活動をしているのでフリースクールにも関わっているが、フリースクールで週1回親サロンを始めた。利用者の親に限らず、子どもの不登校で悩んでいる親が、週1回フリースクールの部屋を借りておしゃべりをするもので、10人くらい集まっている。スタート時は担当として関わったが、最近は親同士で盛り上がっている。このような動きはすごく良いと思って見ている。

もう一つは、ひきこもりの家族交流会を月に1回やっているが、特殊な課題なので、どこでも誰にでも話せるものではない。月1回では愚痴をこぼしきれず、会員が月に2回くらい自宅を開放して、徐々にお茶を飲みながら、おしゃべりをする会ができてきている。

私は不登校とひきこもり、発達障がいという分野をやっているが、色々な分野で気楽におしゃべりできる会はとても大事だと感じている。サロンのようなものは色々な形で行われているという情報を広く知らせていくことから始まると思う。

地域福祉計画の策定委員会の時も議論になって、地域包括支援センターに地域福祉コーディネーター的な役割の人が配置され、高齢者以外の様々な生活課題も解決につなげる役割を担ってもらえればいいのではないかと思ったが、現実に今の地域包括支援センターは、高齢者福祉の対応で精いっぱいという状況だが、今後の課題として、地域福祉コーディネーターが果たしている役

割のような人材を、地域包括支援センターの生活支援コーディネーターに組み込んでいくようなサポート体制を作っていくということも考えておいた方がいいのではないかと。

高齢者の対応で世帯へ入った地域包括支援センターの方が、息子がひきこもりで8050問題の対応のため、フリースクールに相談に来たことがある。

垣根を取り払って課題を総合的に考えていく機能がこれからますます必要になってくる感じがする。

#### 池田座長

たしかに包括の役割はどんどん大きくなり、できた時と比べると仕事量が増えてきている。人員を増やすことは難しいだろうが、包括の人員を増やすと地域福祉の仕掛けはできる。今の話にあったコーディネート機能の部分で二層コーディネーターが仕掛ければ三層に繋がっていくだろうし、そのような意味では面白いと思う。

時間になったが、全体を通して何かあるか。

#### 事務局（和久井課長）

ご心配をおかけしていた、棒二閉店に伴ってふらっとD a i m o nがお休みをいただいていた件だが、2月8日から通常通り開設している。

次回の会議については、本日の時点で日程が決まってないが、新年度に入ってからご連絡差し上げる予定となっている。

#### 池田座長

今日はどうもありがとうございました。